



- 会長／佐藤有司
- 副会長／山崎典夫・薩摩 建
- 幹事／梅垣和彦
- R 情報(会報)委員長／笠原新太郎

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-1 ・ Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939  
URL: okayarc.org ・ Email: okayarc@bz04.plala.or.jp
- 例 会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

## 第 2885 回例会 2019 年（令和元年）8 月 27 日(火)

点 鐘：佐藤有司 司 会：中畑隆一  
斉 唱：我等の生業  
ラッキーNo：NO. 5 山崎典夫

### 会 長 挨拶

皆さん、こんにちは。  
始めに本日のゲストをご紹介します。  
岡谷市 市議会議員 吉田 浩 様です。後程お話を頂きます。よろしくお願い致します。  
ここ数日は朝晩涼しくなり半袖では寒い位です。週間予報では週の初めは平年並みですがその後は高めになるようです。  
今月はスポーツの話題が多く、夏の甲子園は大阪・履正社の初優勝で幕を閉じました。  
地元選手の活躍はというと熊本で行われたインターハイのボート競技で諏訪清陵高校の武井愛奈（まな）選手がみごと優勝しました。彼女の種目は「女子シングルスカル」といい一人で漕ぎます。この種目では6年前にも下諏訪向陽高校から優勝者を出しております。  
今回、武井選手は8月7日から行われた世界ジュニア選手権にも出場しました。世界ジュニア選手権は東京オリンピックのプレ大会的に東京「海の森水上競技場」にて開催されました。残念ながら入賞とはいきませんでしたが大健闘したと思っております。  
今まで日本ランキング上位の選手は海外で行われる世界ジュニア選手権に出場していたため、同時期に開催されるインターハイに出場出来ないケースがありました。  
今年は国内で世界ジュニア選手権が行われたため、上位の選手が全てインターハイに出場したので「真の日本一」になったというわけです。  
秋の国体での活躍を期待するところです。簡単ですが挨拶とさせていただきます。

## 幹事報告

- 本日の理事会に於いて、創立 60 周年記念事業実行委員会組織表が提案され、承認されましたのでご報告いたします。それに伴い 60 周年記念事業に関わることで何点かお知らせいたします。  
まず、地区補助金事業と 60 周年記念事業の一環として、シルクファクトの既存花壇整備を実施いたします。9 月 7 日（土）10 時から、現地集合です。会員の皆様とお子様も是非ご参加いただき、作業できる服装、園芸用スコップ、軍手をご持参のうえお集まりください。  
そして、屋外教材の引渡しとお披露目については、11 月 17 日（日）10 時よりシルクファクトにて行います。こちらはロータリーデーとして、ボーイスカウトの皆さんにも参加していただき報道機関も呼びますので予定してください。  
また、ボーイスカウト・ガールスカウト・つつじが丘学園の助成金額について、周年行事ということで増額を検討したいと思います。  
次週 9 月 3 日のクラブフォーラムは、各部会に分かれて話し合いをお願いします。
- 今年度も諏訪グループポリオ撲滅チャリティーゴルフが 10 月 6 日（日）諏訪湖 CC で開催されます。参加される方は期日までに申し込みしてください。チャリティー募金は各企業に協賛金 2000 円を募り、新聞広告に社名を掲載いたします。ご協力よろしお願いいたします。
- 米山梅吉記念館 100 円募金はクラブより送らせていただきます。



### 卓話「こどもだるま食堂の取り組み」

岡谷市議会議員 吉田 浩様

本日はお呼びいただきありがとうございます。

私、5 月より新人の議員として活動させていただいております吉田浩と申します。生まれも育ちも岡谷市の小井川です。

本日は「こどもだるま食堂」の経緯と、だるま食堂とはどういう活動なのかをお話しさせていただきます。

私は諏訪で飲食店を経営しております。10 年ほど前、あまり景気も良くなく、ただお客さんを待つだけでは経営が成り立たないので、店でイベントを企画いたしました。そのうちイベントの企画、周知、集客に興味を持ち、もっと大きな企画、イベントをやりたいと思うようになりました。余談ですが、私は「大手マルシェ」というものを 5 年前に立ち上げました。どういうものかというと、昼間ほとんど利用の無いコインパーキングを何かに使えないかと考え、地元の農家の方がせっかく愛情を込めて作った野菜が、スーパーへ卸したらそれで終わりではなく、買ってくれる人の顔が見え、野菜に対する愛情やこだわりが伝えられる商売がしたい、また我々消費者も、自分たちが手に取るものの口に入れる物の良さについて、作った人と直接話が



できればいいんじゃないかという提案があり、昼間利用のない駐車場で大手マルシェを始めました。やがて生産者だけでなく、子育てをしながら小物を作っている人や、企業の方（味噌屋さん、パン屋さんなど）も加わり今では 30 社以上加盟していただき、お客様も大変増えました。場所も 1 か所に限らず、大手マルシェという単位で、イベントに呼ばれたりしながら活動範囲を広げ、周知され定評をいただいております。

こういった地域活動をひとつ始めて軌道に乗せるのは大変なことで、集まらないから辞めるのは簡単ですが、どう継続していくか、お客さんが集まらないならどうすれば集まるようになるかという事が私のテーマになっております。



本題に入りますが、皆さん「子ども食堂」という言葉を聞いたことがないという方はいらっしゃいますか。1 年前はほとんどの方が知らない状態でした。今は新聞などで報道されているので知っている方も多いと思います。

2016 年、全国で約 700 ヶ所の子ども食堂があったなかで、今年の調べでは約 3000 ヶ所に増えました。子ども食堂というと、食の貧困を抱えている子どもたちに食事を恵む活動だと思っている方が多いです。東京で初めて子ども食堂が立ち上がったのは、夜遅いのにもいつも外で遊んでいる、いつも同じ服を着ている、いつもお腹を空かせている気配があるのを見て、八百屋のお母さんが声を掛け、両親の帰りが遅くてご飯が食べれない子どもに食べさせてあげたのがきっかけだそうです。私が岡谷市の子ども食堂を知ったきっかけは、PTA やこども育成会の活動で 2 年ほど前に話を聞きました。私もはじめは「貧困の子どもなんているのか、そんな会を開いても出てこないんじゃないか」と思いました。しかし今の新しい子ども食堂はそうではなく、核家族化、両親の共働きによる「孤食」の子ども達を支えるということなのです。子どもがひとりで食事をするとうるさくという事が起こるかという、まず好きなものしか食べません。しかも昔のように一汁三菜でごはん、味噌汁、おかずが 3 品などという感覚が今の子ども達には全くありません。朝ごはんを食べずに学校へ行く子も増えています。それだけでなく伝統的な食文化も失われ、四季折々の美味しい食材を知らない方が多く、この辺でいう干し柿とか野沢菜なども知らない子どもが多くなっています。それではいけないという事で、子供から高齢者の世代までたくさんの方が集まって「孤食」を減らそうという集まりで始まりました。

この写真は、毎月行われている、だるま食堂の食事風景です。多い時で、150 名位、少なくとも 80 人位集まります。



見ていただくと分かりますが、大人も多いです。保護者や地域のお年寄り、社協や視察の方など、色々な立場の方が来られます。実行委員もたくさん参加しています。ここで提供する食事をどう賄うかという、子どもは無料ですが、大人から300円いただきます。50人規模の子ども食堂には最低でも1万円必要です。足りない分については食材提供として様々な方から協力をいただいています。県や市と連携し、先月は非常食のアルファ化米を振舞いました。水で戻せるお米で備蓄米なんです。消費期限の近いものはボランティア団体に寄付してくれるのです。

昨年、子ども食堂をやりたいと言いはじめた時に、どこへ話を持っていけばいいか考えた時、市では前例がないと言われ、区やPTA、育成会へも話をしましたが年間計画が決まっており、けっこう大きな事業になるので入れられないと断られました。ただ、どの団体もバックアップはしますと言ってくれたので、民間で立ち上げる事にしました。私のPTA仲間や、孤食について賛同してくれる仲間10名に声を掛けました。それだけではダメなので、子ども食堂に対する正しい知識を伝える為に説明会を2回実施しました。子ども食堂という名前には関心があるらしく、第1回の説明会は市内外から50名来ていただきました。当時、岡谷市では活動がなかったのですが、諏訪市、茅野市では既にやっている団体があり、他の地区はどうやっているのか興味があったようです。県が主体となり、諏訪圏域こどもプラットホーム活動も始まっています。

実行委員会では、月1回開催されるだるま食堂をどんな内容にしようとか、だるま食堂に留まらず岡谷市内にこの活動をどう広げていこうかといった話し合いを月2回実施しています。説明会をしたり、新聞やSNSで発信することにより、多くの方に興味を持っていただき、集まっています。

集まって食事をするだけでは、どうしても時間が持たないので毎回テーマを作ります。ハロウィンの時はみんなで飾り付けをして手作りの仮装をしたり、毎回手を変え品を変え、ただ食事をするだけではないよという事を新聞などで発信し、それを見た方から協力をさせてほしいという問合せもいただきます。

厨房は、実行委員もいますし食事を作りたいというボランティアの方、その中には高校生もいたり、新婚の奥さんが手料理を教わりたいとか、独身の男性が料理を覚えたいという目的で来られたり、年代もバラバラです。

一番参加しにくい中学生は、来てもすぐに帰ってしまう事が多くどうやればいてもらえるだろうと考え、思いついたのはプラレールの現場監督です。プラレールは小さい子供ですと長く繋ぐのが難しかったり、途中で電車が動かなくなってしまうので、そんな時中学生にお願いすると1日飽きずに見ていてくれるので助かりました。

諏訪の落語家さんに来ていただき、生の落語を聞いて会場が笑いの渦になった時もありました。

諏訪の焼鳥屋さんは、焼鳥の要素である焼いている時の煙と香りを是非感じてほしいと、会場の外に炭を起し、子ども達の目の前で焼き立てを振舞ってくれました。また、地域のサポートセンターで、子ども食堂用に畑を作ってくれました。そこへみんなで苗や種を植えて収穫し、食材として使って食べたりもしました。

お蕎麦屋さんから鰹節をたくさんいただいた時は出汁の取り方教室をしました。出汁という概念を知った時の子ども達はとでも驚いていました。

今はあまり目にしなくなった野沢菜漬けは、おとなのワークショップとして募集をかけ教えていただきとても美味しくできました。次世代に伝えられればと思います。高校生のボランティアも多く参加してくれるようになりました。

だるま食堂とは、昔は当たり前だった一家団欒の食事をして会話をし、子どもだけでなく、悩みを抱えたお母さん達が情報を共有できる場でもあります。

私は、今後こども食堂という名前は使わず「多世代型交流コミュニティ」全ての世代に居場所があるコミュニティ作りを、これからも続けていきたいと思っています。次回は9月22日に小井川平成会館で朝9:00から14:00までやっています。どなたでも参加できますので、是非一度足を運んで見に来ていただけたらと思います。

本日はご清聴ありがとうございました。

////////////////////////////////////

## ニコニコボックス

今井康善・牛山幸一・梅垣和彦・江黒寛文・太田博久・大橋正明・小口 隆・小口泰史・笠原新太郎・片桐伸介・上條英雄・北澤洋之介・小宮山英利・佐伯克己・薩摩 建・佐藤有司・杉村邦彦・瀬戸雅三・高木昭好・高木克彦・竹村一幸・中嶋孝一・中村文明・濱 毅・濱 俊弘・林広一郎・林 尚孝・林 裕彦・林 靖高・宮坂晃介・宮澤由己・守屋麻里・矢島 貴・矢島 実・山岡俊幸・山岸邦太郎・山崎典夫  
岡谷市議会議員 吉田浩様、「こどもだるま食堂の取り組み」本日はよろしくお願いいたします。

## 出席報告

会員数47名、出席者39名、出席率86.67%

2019-2020 年度RIテーマ  
ロータリーは世界をつなぐ  
ROTARY CONNECTS THE WORLD



ロータリーは  
世界をつなぐ  
Rotary Connects The World